

金融包摂への取り組み

世界銀行によると、金融包摂とは、「個人・法人が自身の取引・決済・貯蓄・借入・保険等の金融ニーズに合う金融商品・サービスにアクセス可能で、その提供を適切に受けられること」とされています。日本の金融口座保有率は世界で最高水準にあります。金融サービスへのアクセスおよび適切な提

供について見ると、世界の中で超高齢社会の最先端にいる我が国では高齢の方などへのサポートが必要です。私たちはあらゆる方に適切にサービスをお届けするべく、体制整備を推進しています。

認知症バリアフリー宣言

「認知症バリアフリー宣言」は、認知症バリアフリーに向け取り組む企業・団体等が、自らWeb等で「認知症バリアフリー宣言企業」として宣言を行うことを通じて、認知症のご本人やそのご家族の方々にとって安心して店舗やサービス・商品を利用できる環境の整備などに努めるとともに、認知症バリアフリー社会の実現に向けた機運を醸成することを目的として行うものです。

超高齢社会の進展を背景に、社会構造が大きく変化するなか、金融機関各社には金融包摂の実現が求められています。

我が国の高齢者の皆さまが、自らの意思に基づき、安心して幸福に人生を過ごすことができる豊かな高齢社会が実現できるよう、認知症バリアフリー宣言制度の趣旨に賛同し、2022年3月に本宣言を実施致しました。

当社は本宣言に基づき、認知症への事前の備えを提供すべく、商品開発、コンサルティングの高度化、地域連携などを推進していきます。



当社の認知症バリアフリー宣言はこちらをご参照ください
<https://ninchisho-barrierfree.jp/search/detail/19/>

シニア世代応援レポート(認知症を考える3.0)

認知症などで判断能力低下後も、安心して自分らしい生活を送るためには、「事前の備え」が重要となります。

三井住友信託銀行では、「シニア世代応援レポート～認知症を考える3.0～」を作成し、成年後見制度やその他の公的な支援の仕組み、およびそれらを補完する金融商品・サービスなど「事前の備え」の選択肢を分かりやすく整理しました。

また本邦初となる、高品質の音声合成による音声アシスタント機能※を搭載し、各ページに配置された二次元コードをスマートフォンで読み込むことで、音声にて案内を聞くこと

ができます。さらに聞きやすいスピードや声色を選択することも可能です。

お客さまの状況に応じ、分かりやすく情報提供し、最適な「事前の備え」を提供致します。

※音声アシスタント機能VOXXはREMEM(株)が提供しています。



二次元コードを読み込んでいただくと、音声にて、P5「認知症に対応し選択できる制度・商品」のご案内を聞いていただけます。



意思決定支援に向けた一般社団法人日本意思決定支援推進機構との連携

三井住友信託銀行は、判断能力低下後も本人の意思を生活に反映させる取り組み(意思決定支援)を推進するため、一般社団法人日本意思決定支援推進機構に正会員として参画しており、京都府立医科大学大学院(成本迅医学研究科精神機能病態学教授)における、アルゴリズムを用いた革新的金融デジタル技術の研究開発によるイノベーションの推進をサポートしています(金融庁の金融行政方針(別冊)

補足資料およびNEDO国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構「規制の精緻化に向けたデジタル技術の開発」ご参照)。



寄付目録をお渡しする様子
左:柳 京都支店長 右:成本 教授